

## 1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

| 項目   | 前回（4年1月判断）                          | 今回（4年4月判断）                          | 前回比較 |
|------|-------------------------------------|-------------------------------------|------|
| 総括判断 | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している | →    |

（注）4年4月判断は、前回1月判断以降、4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が持ち直しつつあるなど、新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。生産活動は、生産用機械が拡大しつつあるほか、電子部品・デバイスが持ち直しつつあることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

## 【各項目の判断】

| 項目   | 前回（4年1月判断）                           | 今回（4年4月判断）                           | 前回比較 |
|------|--------------------------------------|--------------------------------------|------|
| 個人消費 | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある     | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある     | →    |
| 生産活動 | 回復に向けた動きに一服感がみられる                    | 緩やかに回復しつつある                          | ↗    |
| 雇用情勢 | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある | →    |
| 設備投資 | 3年度は増加見込みとなっている                      | 3年度は減少見込みとなっている                      | ↘    |
| 企業収益 | 3年度は減益見込みとなっている                      | 3年度は減益見込みとなっている                      | →    |
| 住宅建設 | 持ち直しつつある                             | 持ち直しつつある                             | →    |

## 【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では高額品に動きがみられるものの、衣料品等の動きが鈍いことから、前年を下回っている。スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、前年を上回っている。以上のような状況を踏まえると、持ち直しつつある。コンビニエンスストア販売は、米飯類等に動きがみられることなどから、持ち直しの動きがみられる。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられることに加え、新規出店効果がみられることなどから、順調となっている。ホームセンター販売は、園芸用品等の動きが鈍いことから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、白物家電に動きがみられるものの、パソコン等の動きが鈍いことから、横ばいの状況にある。新車販売台数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに前年を下回っており、足踏みの状況にある。主要観光地の入込客数は前年を下回っているものの、主要温泉地の宿泊客数は前年を上回っている。旅行取扱実績は、国内旅行、海外旅行ともに厳しい状況にある。以上のことから、個人消費については、新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 感染が再拡大した1月中旬以降、2月から3月上旬にかけて、メインとなるシニア層の客足が大幅に落ち込み、厳しい状況となった。3月中旬からは家族連れも含め客足が戻り始め、着実に改善してきている。(百貨店)
- やや落ち着いた巣ごもり需要が1月中旬から戻り始め、飲食料品の売れ行きが良い状況が続いている。(スーパー、中堅企業)
- 2月は感染症や雪の影響により客数が減少していたものの、3月以降は休日を中心に客足が戻ってきており、米飯類の売れ行きが良い。(コンビニエンスストア、大企業)
- 引き続き、マスクや消毒液等の衛生用品のほか、飲食料品の売れ行きが良い。(ドラッグストア、中堅企業)
- 2月は気温が低く推移し、園芸用品の動きが鈍い。(ホームセンター、大企業)
- 前年と比べ新生活需要が持ち直しており、白物家電の売れ行きが良い。一方で、前年のテレワーク需要の反動から、パソコンの動きが鈍い。(家電大型専門店、中小企業)
- メーカー各社の自動車減産により、平常時と比べて納車までの期間が長くなっている。一方で、受注は引き続き順調に推移している。(自動車販売店、中小企業)
- 1月後半以降は感染者数が増加していたことから宿泊者数が減少した。3月中旬以降は県民割が再開したことなどから宿泊者数が増加している。(温泉地)
- まん延防止等重点措置の期間中は、アルコール提供時間の短縮もあり、来店客数が減少した。3月中旬以降、観光客が居酒屋を利用する姿がみられている。(飲食サービス、大企業)

### ■ 生産活動 「緩やかに回復しつつある」

電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に持ち直しつつある。化学は、大宗を占める医薬品で、持ち直しつつある。生産用機械は、半導体製造装置が拡大しているほか、金属加工機械、繊維機械が増加していることなどから、全体では拡大しつつある。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、住宅用を中心に緩やかに持ち直しつつある。繊維は、衣料向け、非衣料向けともに足踏みの状況にある。以上のことから、生産活動については、緩やかに回復しつつある。

- スマートフォン向けについて、受注が上向きになっており、工場はフル稼働となっている。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 全国的な医療用医薬品の不足を背景に、後発医薬品を中心に受注が増えている。(化学、大企業)
- 世界的な半導体不足を背景に、半導体製造装置は韓国、台湾などのアジア向けを中心にフル生産が続いている。(生産用機械、中堅企業)
- カーシート向けについて、自動車減産の影響を受けて、車種によっては生産がやや減少している。(繊維、大企業)
- 住宅用サッシが堅調となっているほか、エクステリア向けが好調。(金属製品、大企業)

### ■ 雇用情勢 「新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率は上昇している。新規求人数は前年を上回っており、新規求職者数は前年を下回っている。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。以上のことから、雇用情勢は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

- 感染者数の動向によって業務の繁閑が短期的に変化するため、派遣の従業員で調整を行っている。(宿泊業、中小企業)
- 工場のフル稼働が続き、製造部門がひっ迫していることから、契約社員を通年で募集している。(化学、大企業)
- 新規求人は、製造業を中心に多くの業種で前年を上回っているものの、新規求職は、感染拡大の影響により、求職活動を控える動きがみられた。(労働局)

■ **設備投資** 「3年度は減少見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年1-3月期

- 製造業では、情報通信機械器具などが増加となるものの、その他製造、化学工業などが減少となることから、全体では減少見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信などが増加となるものの、金融・保険、運輸・郵便などが減少となることから、全体では減少見込みとなっている。

- 前年度に実施した大型投資の反動などにより、減少見込み。(その他製造、大企業)
- 前年度に実施した大型投資の反動などにより、減少見込み。(金融・保険、大企業)
- 半導体増産のための生産ライン増設などにより、増加見込み。(情報通信機械器具、大企業)

■ **企業収益** 「3年度は減益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年1-3月期

- 製造業では、自動車・同附属品などが増益となるものの、化学工業、金属製品などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、建設などが減益となるものの、運輸・郵便などが増益、宿泊・飲食サービスなどが赤字縮小となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年1-3月期

- 企業の景況判断BSIは、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。なお、先行きは、全産業では4年4-6月期、4年7-9月期ともに「上昇」超となる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「持ち直しつつある」

- 新設住宅着工戸数で見ると、持ち直しつつある。

■ **公共事業** 「前年を上回っている」

- 前払金保証請負金額で見ると、前年を上回っている。

■ **金融機関の貸出金** 「前年を上回っている」

- 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。

■ **企業倒産** 「前年を上回っている」

- 件数、負債総額ともに、前年を上回っている。

■ **消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合)** 「前年を上回っている」

- 消費者物価指数で見ると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

|     | 前回(4年1月判断)                          | 今回(4年4月判断)                          | 前回比較 | 総括判断の要点  |
|-----|-------------------------------------|-------------------------------------|------|--|
| 石川県 | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している | ➡    | 個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。また、雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。         |
| 富山県 | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している | ➡    | 個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつあり、生産活動は回復に向けたテンポが緩やかになっている。また、雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。 |
| 福井県 | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している | ➡    | 個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつあり、生産活動は持ち直している。また、雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。              |